

脊振山～落ち葉の頃

脊振山麓。季節は秋から冬へ、駆け足で通りぬけようとしています。ふもとの椎原の集落です。穏やかな陽だまりにも風が立ち始めました。

ここは脊振山中腹の板屋の集落。風の音が大きくなった気がします。

脊振山の森は、落葉が始まっていました。

夏には薄暗かったブナの森です。でも今は木々が葉を落とし、森の中が明るくなっています。

(木はどうして葉っぱを落とすの?)

冬になると空気は乾燥しますね。それから太陽の光もすごく弱くなってしまいます。ですから、そうすると葉っぱでできる栄養分も非常に少なくなってきますし、吸い上げる水分も大変少なくなってくるわけです。

それならいっそのこともう葉っぱを落としちゃおうと考えたわけですね。そうすることによって無駄なことをしないで、冬に備えて、暖かい春を待とうという、そういう生き方を考えたわけです。

木々は厳しい冬に備えるため、葉を落としてエネルギーの消耗を防ごうとしているのです。

ブナの木の下に、巻尺で1平方メートルの囲いを作ります。

そしてこの1平方メートルの囲いの中に、ブナの実がどれくらい落ちているのかを調べるのです。葉っぱも木の枝も実も、一緒に拾い集めます。

はい、これがブナの実です。けどここは、ブナの実だけじゃなくって他の植物もたくさん種を落としていると思います。こんな風にブナの森というのは、いろんな植物のいろんな種がたくさん落ちているから、「シードバンク」と呼ばれているのです。

1平方メートルの中に、これだけの木の実が落ちていました。とがったブナの実が173個、そのほかの実が52個、あわせて225個の木の実がありました。

ブナの林の木の実は、冬を生き抜く動物達の命の糧にもなっています。

林の落ち葉の下から、きのこが頭を見せています。真っ赤なタマゴタケです。

(きのこって植物なの?)

いいえ、植物ではないんです。これは、菌類という仲間に入っています。これはどんな役目を持っているかといいますと、森の中の動物の死骸だとか、落ちた枝だとか落ち葉だとか、こういうものを分解してくれる役目を持っているのです。

(菌類がいなかったら?)

もし分解する菌類がいなくなってしまうたら、まず植物が養分を取ることができず、いなくなってしまう。動物は植物を食べて生きていますから、もちろん動物もいなくなってしまうことになります。

ですから、菌類がいなくなるということは、植物も動物も全部なくなるということになってしまうわけです。だからとっても大切な役目を持っているんですね。

きのこは、分解者といわれます。枯れ木や落ち葉を分解し、木々や草が育つ養分を作り出します。きのこは森のリサイクル屋さんなんです。

雨の降るブナの森に入ってみました。

ヌメリツバタケモドキなど、たくさんのきのこを見つけました。

きのこは菌糸といって普段は糸のような姿で土の下で暮らしています。しかし、きのこが好きなじめじめした環境になったとき、土の下の菌糸がきのこの形となって、いっせいに地上に姿を現すのです。

きのこは植物でいうと花に相当します。傘のようなきのこ、とがったきのこ、サンゴのようなきのこ、まん丸なボールのようなきのこ。じつに様々なきのこが森の中で生きています。

木々が葉を落とし冬の眠りにつこうとしているころ、山は落ち葉大好ききのこでにぎやかになるのです。

(ずーっと大切にしたいね！)